

千歳市場の今後の方向性に関する検討経過

千歳市公設地方卸売市場調査検討業務（平成 21 年度～22 年度）
平成 23 年 3 月に調査結果報告
【目的】 近年の流通構造の変化や消費者ニーズの多様化などにより、卸売市場の取扱量、取扱金額が減少傾向にあることから、千歳市場の今後の進むべき方向性と運営のあり方等を検討するための基礎資料とする。
【今後の市場のあり方】 <ul style="list-style-type: none"> ・市場財政の健全化と市場運営の円滑化に取り組む必要である。 ・民間の経営手法が期待できる運営形態への段階的な移行が効果的である。 ・社会経済状況や流通環境の変化を踏まえ、あり方及び方向性について今後も引き続き検討が必要である。



千歳市卸売市場運営委員会
平成 24 年 3 月に「千歳市公設地方卸売市場の今後の方向性に関する意見報告書」を市長に提出
【今後の市場の運営形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・食の安全・安心に対する市民の期待に応えるために、公設市場としての役割や信用力を担保する必要がある、いかなる手法であっても、市が市場運営に関与することを念頭に進めるべきである」



千歳市公設地方卸売市場のあり方に関する庁内検討会議
平成 24 年度に合計 6 回開催し検討
【検討結果】 <ul style="list-style-type: none"> ・千歳市場は、市民生活に直結した生鮮食料品の供給ルートとして機能しており、取扱高の増加が期待できることから、売上高向上策に取り組んで活性化を図るとともに、その結果を踏まえ、改めて千歳市場の評価を行う。



千 歳 市

- ◎市民に安全で安心な生鮮食料品を安定的に供給する公設卸売市場の本来的役割を果たすため、市場活性化に向け開設者・市場関係者が一体となって売上高向上策に積極的に取り組むこととする。
- ◎平成 25 年度から売上高向上策を実施するとともに、平成 28 年度には取組結果を検証し、存廃を含む千歳市場の評価を行う。

項目	内容
取組期間	平成 25 年度～平成 27 年度（3 年間）
取組方法	市場内に開設者及び市場関係者等で組織する「(仮称) 営業戦略会議」を設置し、取組目標（値）を設定して売上高向上策に取り組む。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の取扱量の増加 卸売市場としての機能を維持するため、現状の取扱量の増加を目指す。 ・卸売業者・仲卸業者の従業員 1 人当たりの取扱金額の増加 千歳市場において、安定した収益を上げるため、国の卸売市場整備基本方針に掲げる平均取扱金額以上の取扱を目指す。 ・青果物の地域内供給率の向上 市場機能を維持するため、現状の地域内供給率の向上を目指す。
取組結果の検証・評価	平成 28 年度に取組結果を検証し、存廃を含む千歳市場の評価を行う。

《参考》取組結果

・市場取扱量

（青果部門）

平成 24 年度 6,214 t

平成 25 年度 6,422 t（前年度対比 103.3% 208 t の増）

平成 26 年度 6,460 t（前年度対比 100.6% 38 t の増）

（水産物部門）

平成 24 年度 - t

平成 25 年度 - t

平成 26 年度 8 t

・卸売業者従業員 1 人当たり取扱金額

(青果部門) ※国の水準 130,000 千円

平成 24 年度 125,807 千円

平成 25 年度 137,379 千円 (前年度対比 109.2% 11,572 千円の増)

平成 26 年度 136,550 千円 (前年度対比 99.4% 829 千円の減)

(水産物部門) ※国の水準 160,000 千円

平成 24 年度 — 千円

平成 25 年度 — 千円

平成 26 年度 3,525 千円

・青果物地域内供給率

平成 24 年度 41.3%

平成 25 年度 43.4% (2.1 ポイントの増)

平成 26 年度 全国統計値発表後に集計